

(楳内委員)

資料の9ページです。八戸圏域文化財魅力発信事業については、文化財にバトルカードというツールを用いて楽しく親しみを持ちながら触れることができる、非常に工夫された取り組みであると感じているところです。体験ブースの出展をみても、参加者に対して体験者数も一定数おり、徐々に浸透しているものと思っているが、体験者の様子や、反応、感想などを把握していたら教えていただきたい。

(社会教育課長)

実施状況にもあるとおり、今年度は各市町村において、様々な地域のイベント等に体験ブースを出展させていただいたが、八戸市の状況について説明させていただく。まず、5月の青空マーケットについては、八戸市庁前広場で開催されたのだが、こちらのイベントの来場者の大半が小学校低学年の児童や未就学児を連れた親子が多かったことから、親子でカードバトル体験をしていく方が多く見受けられた。小さいお子様が多かったので、どちらかというと保護者の方に興味を持っていただいたようで、カード設置場所シートを見て、実際に行ってみたいという感想が多く聞かれた。

11月に実施した「南郷産業文化まつり」については、今年度で2度目の出展だったことや天候に恵まれたこともあって、老若男女、様々な方がブースに立ち寄ってくださった。体験者の中にはカードゲームに慣れているお子様も多く、初めは職員を相手に教わりながら対戦していたが、途中から子ども同士で遊ぶ姿が見られたほか、自分たちでルールを理解し、工夫して楽しんでいる様子が見られた。

2つのイベント出展を通じて、「もっと遊びたい！」という子どもたちの声が多く聞かれたことから、2月上旬にバトルカードのセットを各小学校に1セットずつ配布して学校で遊べるようにしたところである。また、昨年度に引き続き、今年度はこれから実施するところであるが、その他に各学校ではバトルカードを使ったワークショップ形式の授業を行うこととしている。

遊ぶことはもちろん、それをきっかけとして、文化財に興味を持っていただくとともに、家族の会話が増えて親子で出かけていただく機会の創出に繋がればよいと考えている。

(楳内委員)

私は歴史が苦手だった。親しみが感じられず、説明そのものがわからないこともあり、なかなか歴史の点数がとれなかった。何かに親しみを持つということについては、楽しいとかそういう感覚が非常に大事だなと思っている。このツールを通じて家族とのふれあいが生ま

れる効果もあるということで、今後、ポケモンカードのように発展していくのも楽しみだと思った。

6 ページの先人周知事業についても、事前にホームページを見たが、歴史が苦手な私にはどういう方なのか深い理解にまでたどり着くことができなかった。先人についても、バトルカードになったら面白いかなと思ったので、今後の展開に期待をしたい。

(川守田委員)

2 点質問させていただく。

まず、7 ページの八戸三社大祭ユネスコ無形文化遺産 P R 事業の小学生向けの副読本について伺いたい。前回の会議でも、八戸三社大祭に子どもたちをいかにうまく巻き込んでいくかということが課題だと話題になったので、着目した。こういう副読本を小学生に配付することで、小学生はもちろんのこと、児童を通じて保護者も見ることができるので、周知という点では非常に有効なツールであると思った。

この副読本は一般の方も見ることはできるのか教えていただきたい。

(社会教育課長)

御覧になりたいという話であったので、お手元に見本を回覧させていただきながら説明させていただく。こちらの三社大祭の小学生向けの副読本であるが、平成 28 年 12 月に三社大祭の山車行事を含む全国 33 件の祭礼行事が、山・鉾・屋台行事としてユネスコの無形文化遺産に登録されたことをきっかけに作成し、平成 29 年度から小学校 3 年生に配付を開始したものである。

その後、学習指導要領の改訂等があり、現在は 4 年生を対象に毎年配付している。副読本は一般の方にはお配りしていないが、八戸市立図書館で御覧いただけるほか、八戸市のホームページで公開している。ホームページでは副読本の PDF ファイルをダウンロードできるので、よろしければそちらも御覧いただければと思う。

(川守田委員)

ホームページ、文書で閲覧できる、一般に広く見られるということでありありがとうございます。実際に副読本を拝見すると、子どもさんの目線で練習にどういう風に参加するのかとか、やってみたい人への窓口のチラシとかが入っていてとても素晴らしい。あまり大きいとお子さんが見るのに少し抵抗があると思うので、小さくて薄いのもいいと思った。

次に、19 ページの市民英会話教室について伺いたい。非常に好評で、今年は 2 回増えて 3 回開催とさきほどお話いただいたが、八戸市内にもアジアの方が最近増えているので、英語以外の言語の教室を開催することを検討されているのかどうかを伺いたい。

(総合教育センター所長)

市民英会話教室だが、総合教育センターとして社会教育の分野で何か貢献できることはないかということで、八戸市内の小中学校で任用し、英語の授業で補助教諭として活躍しているALT・外国語指導助手を活用して開催しているものである。大変申し訳ないが、他の言語での教室は検討していない状況である。

(川守田委員)

観光だけではなく、八戸市に居住する外国の方々も増えてきていると思うので、多様な交流が、生まれるような取組が増えるといいなと思った。

(上斗米委員)

私は東京の方で50年以上仕事をしていたが、昨年八戸に戻ってきた。八戸市の歴史や文化のほか、青少年の活動、お母さんたちの活動に触れ、改めて魅力を発見することができた1年だった。自分自身、鷗盟大学48期生に入学させていただき、校外学習で是川縄文館や根城の博物館に伺ったりして、本当に素晴らしいなと思いながら学んでいて、微力ながら努力していきたいと思っている。

市民大学講座も本当に幅広い、東京の方にもなかなか受けられない講師陣であると感じていて、どのように講師を決めているのかと思っていた。そうしたところ、先ほどの社会教育課長の説明の中で、いろいろな声を聴きながら庁内関係課とも連携して決めていくことだったので、委員の皆様や市民の皆様の声も、参考に進めていただいたら本当に素晴らしい講義内容になるものと思った。

図書館のブックスタート事業について伺いたい。八戸を本のまちにしようということで、お子さんたちに絵本などをプレゼントしているということだが、9月から配付を開始している「ぬくもりつみき」が何から変更になったものか伺いたい。

また、川守田副委員長から、八戸には今フィリピンの方とかベトナムの方とか市内の事業所で働いている方がいらっしゃるのので、英語以外の言語の教室も増えたらいいというお話があった。英語に限らずどんな言葉でも仲良しになって一言でも話していけるんだよということ私を東京の方で40年近くやっていたので、今後、英語以外の教室などでお役に立てることがあれば、力になりたいと思う。

(図書館長)

ぬくもりつみきについてだが、他の配付物との入れ替えではなく、追加したものとなっている。絵本ではなく、「積み木」である。角の丸い木製の積み木で、1辺15から20センチぐらいの正方形の箱に9ピースぐらい入っており、配付している。ぬくもりつみきは農林畜

産課が令和6年度から始めた事業である。木材の利用促進の一環として木製品との触れ合いを通して木材への親しみや木の文化への理解を深めて木材の良さや利用の意義を学んでもらえるようにということで、開始した事業である。配付対象がブックスタートの対象者と同じだったことから、それぞれが配付するよりも、ブックスタートパックに入れて配付することで、保護者の負担を増やすことなく実施できると考え、また、配付している布バッグに入るサイズでもあったため、今年度の9月から図書館で実施しているブックスタートパックと一緒にに入れて配付している。

しかし、このぬくもりつみきを農林畜産課に直接取りに行く方もいるのではないかということから、ブックスタートパックを受け取っていない方が来庁した場合には受け取ることができるよう、農林畜産課においてもパックを配付しているところである。